

## 第2部 生活復興感

### 第1章 生活復興感尺度の結果

2001年、2003年調査と同様に「生活の充実度」「生活の満足度」「1年後の生活の見通し」の3つに関する質問項目を設けた。

生活充実度に関しては、「あなたは現在の生活を、震災前の生活と比べてどのように感じておられますか」と問い、「忙しく活動的な生活を送ることは」、「自分のしていることに生きがいを感じることは」、「まわりの人びととうまくつきあっていくことは」、「日常生活を楽しく送ることは」、「自分の将来は明るいと感じることは」、「元気でつらつとしていることは」、「仕事の量は」、の計7項目について、「かなり減った～かなり増えた」の5選択肢で回答を求めた。(問26)

生活の満足度については、「あなたは現在、つぎにあげたことがらについて、どの程度満足されていますか」と問い、「毎日のくらしに」、「ご自分の健康に」、「今の人間関係に」、「今の家計の状態に」、「今の家庭生活に」、「ご自分の仕事に」、の計6項目に対して、「たいへん不満である～たいへん満足している」の5選択肢で回答を求めた。(問28)

1年後の生活の見通しについては、「1年後のあなたを想像してください。あなたは今よりも生活が良くなっていると思いますか、どうですか。」として、「かなり良くなる～かなり悪くなる」までの5選択肢を与えた。(問30)

これら3種類の質問群を、質問紙の中で異なった場所でたずねた。

得られた回答により、これら計14項目が「生活復興感」という1つの潜在変数をはかっているかどうかを確認するために、因子分析を行った。その結果1因子が抽出された。

つまり、14項目は確かに1つの潜在変数をはかっていることがわかり、この潜在変数を「生活復興感」と名づけ、2001年、2003年調査に引き続き、2005年調査においても分析の対象とした。(表2-1)

表 2-1 2005 年度生活復興感尺度・因子分析結果 (N=1028)

		因子負荷量	共通性
問 26	震災前と比べて増えましたか？減りましたか？		
	1 忙しく活動的な生活を送ること	0.535	0.778
	2 生きがいを感じることに	0.747	0.714
	3 まわりの人々とのつきあい	0.648	0.610
	4 日常生活を楽しく送ること	0.794	0.758
	5 将来は明るいと感じること	0.781	0.667
	6 元気ではつつとしていること	0.791	0.736
	8 仕事の量	0.388	0.813
問 28	あなたの満足度は？		
	1 毎日の暮らし	0.768	0.775
	2 自分の健康	0.619	0.496
	3 今の人間関係	0.654	0.579
	4 今の家計の状態	0.634	0.664
	5 今の家庭生活	0.682	0.689
	6 自分の仕事	0.658	0.636
問 30:c	1年後のあなたは？ 今より生活がよくなっていますか？	0.516	0.319
固有値		6.247	
寄与率 (%)		44.622	

「生活復興感」の全体傾向について、2001年調査、2003年調査、2005年調査の比較を行った。

具体的な方法としては、それぞれの調査での生活復興感に関する14設問に対する回答を得点化し、各年の生活復興感得点とした。(表 2-2)

表 2-2 生活復興感・得点表

		かなり 増えた	少し 増えた	変わら ない	少し 減った	かなり 減った
問26 震災前と比べて増えましたか？減りましたか？						
1	忙しく活動的な生活を送ること	5点	4点	3点	2点	1点
2	生きがいを感じる事	5点	4点	3点	2点	1点
3	まわりの人々とのつきあい	5点	4点	3点	2点	1点
4	日常生活を楽しく送ること	5点	4点	3点	2点	1点
5	将来は明るいと感じること	5点	4点	3点	2点	1点
6	元気ではつらつとしていること	5点	4点	3点	2点	1点
8	仕事の量	5点	4点	3点	2点	1点
問28 あなたの満足度は？						
		いつも ある	たびたび ある	たまに ある	まれに ある	まった くない
1	毎日のくらし	5点	4点	3点	2点	1点
2	自分の健康	5点	4点	3点	2点	1点
3	今の人間関係	5点	4点	3点	2点	1点
4	今の家計の状態	5点	4点	3点	2点	1点
5	今の家庭生活	5点	4点	3点	2点	1点
6	自分の仕事	5点	4点	3点	2点	1点
問30:c 1年後のあなたは？						
		かなり 良くなる	やや 良くなる	変わら ない	やや 悪くなる	かなり 悪くなる
	今より生活がよくなっていますか？	5点	4点	3点	2点	1点

- ・被災者の生活復興感は2003年に比べてやや上昇した。
- ・生活復興感の高い人と低い人とのばらつきが広がる傾向が見られた。

2001年調査、2003年調査、2005年調査における生活復興感得点の代表値を比較すると、統計的に意味のある差異があった ( $F(2, 2387) = 3.863, p < .05$ )。 (図 2-1)

生活復興感は、2001年 (平均 40.6) から2003年 (平均 39.9) にかけては、ほとんど変動がなかったが、2003年 (平均 39.9) から2005年 (41.2) にかけてはやや上昇 ( $p < .05$ ) した。

また、年を追うにつれて、生活復興感の高い人と低い人とのばらつきが広がっていることがわかった (標準偏差: 8.70(2001年)→9.62(2003年)→9.87(2005年))。

2001年調査から2005年調査までの結果をみると、この4年間の生活復興感の推移は、この間のわが国の景気動向によって説明できると考えられる。図 2-2 の日経平均株価の推移をみると、2001年から2003年にかけて、日本経済は低迷のどん底にいたが、2003年を底に、2005年にかけて回復基調がみられた。こうした景気動向と生活復興感とは、図で明らかなように高い相関を有しており、経済の再建が生活復興の重要な側面であることが指摘できる。

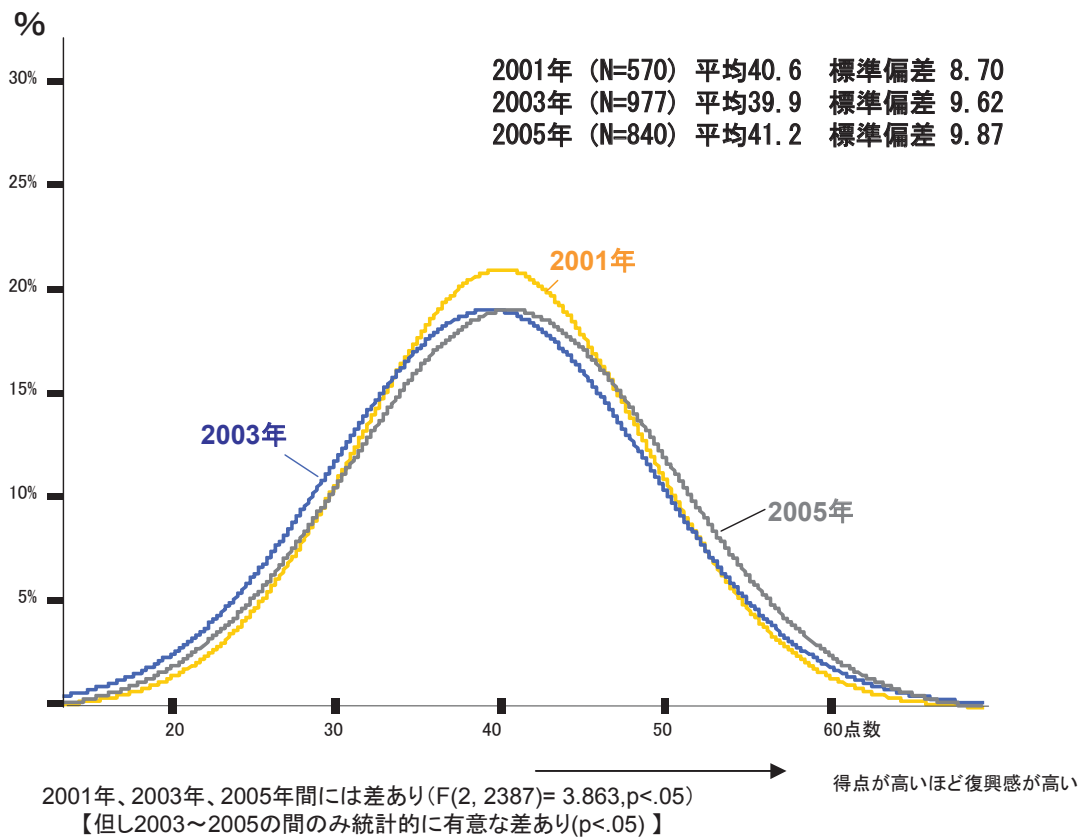


図 2-1 生活復興感の3時点における得点分布

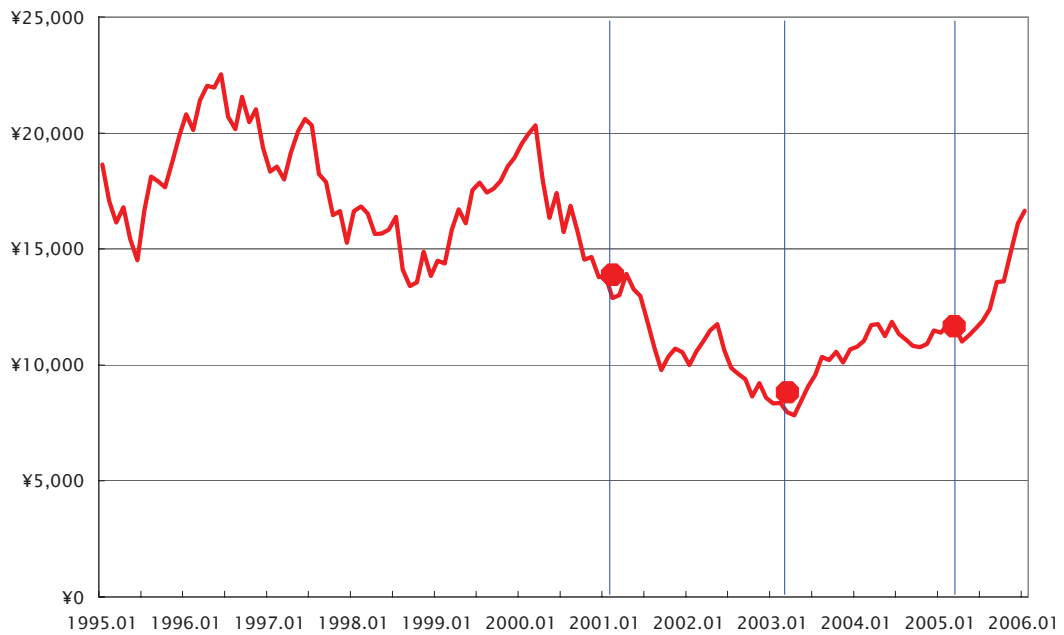


図 2-2 調査時期と日経平均株価との関係 (●が調査時期)